

連絡網にて会員各位（各グループ企業）へ配付、FAX方お願いいたします。

発信番号：DNSC-0341 発信日：2003年7月01日 原稿枚数：1枚

会員各位

（総経理・所長、駐在員の皆様）

ご家族の方にもお知らせ下さい

発信：大連日本商工クラブ

安全対策委員長

「SARS対策アンケート（第2弾）」結果

2003年6月23日付けで標記アンケートを実施したところ、業務多忙にも関わらず107社という多数の会員から回答を頂くことができました。心より感謝申し上げます。

この度、このアンケートの結果がまとまりましたので、お知らせします。

なお、詳しくは別紙の「SARS対策アンケート（第2弾）集計結果」をご覧ください。

1. ほとんどの項目で対応が緩和された。

5月26日現在の対応と比較すると、ほとんどの項目で対応が緩和された。特に、「マスクの着用義務」(53% 20%)、「来客制限」(64% 42%)、「日本からの出張制限」(82% 56%)、「社内の消毒・殺菌」(90% 70%)の対応緩和が大きい。

2. 「日本出張時等の自宅待機」、「日本人の体温測定」は強化？

数字的には、「日本出張時等の自宅待機」(3% 29%)、「日本人の体温測定」(7% 48%)が強化された。前回のアンケートでこれら項目が選択肢になかったためと思われる。

3. 出張地域は大幅に緩和。

直接比較はできないものの、出張制限88%、地域に関わらず出張禁止54%だったものが、北京78%、その他の地域20%前後と大幅に制限が解除されている。

4. 対策解除のタイミングは、半数がWHO、外務省。一部は、本社の指示待ち。

WHOの渡航延期勧告解除	51%	WHOの感染地域指定解除	43%
外務省の渡航勧告解除	56%	中国政府の安全宣言	21%
大連市政府の安全宣言	40%	本社の指示、他社の動向	10%

<安全対策委員会より>

・このアンケートの基準日である6月23日以降、WHO・外務省による北京市への渡航自粛勧告解除(6月24日)、大連市政府による「SARS説明会」の開催(「大連市のSARSは制圧された。」6月26日)を受けて、各社とも対応を更に緩和したものと思われます。

・ただし、大連市政府でも再発の可能性を完全に否定したわけではないこと、うがいや手洗いの励行はSARS以外の病気にも有効であることなどから、今後とも衛生確保・情報収集などに努めることをお勧めします。

(以上)